

1. びわこ文化公園都市

(1)概要・経緯

- ☆昭和54(1979)年、大津市瀬田から草津市にかけての約520haを「びわこ文化公園都市構想区域」に位置づけ
- ☆昭和57(1982)年、この構想を実現するため、基本計画に「5つのクラスター」と「緑の回廊」を位置づけ
- ☆現在は、文化、芸術、医療、福祉、教育、研究、レクリエーション施設等、多様な施設が集積、緑豊かな住宅地も形成

(2)特徴

- ☆県内で最も人口集積が高い地域に近接しているが、瀬田丘陵の自然環境が、公園等として保全されている。
- ☆新名神高速道路草津田上インターチェンジに隣接し、自動車による広域的な交通アクセス性が高い。
- ☆公共交通のアクセスは、JR瀬田駅、草津駅、南草津駅から立地3大学行きを中心に、複数のバス路線がある。

2. びわこ文化公園都市将来ビジョン

(1)経緯

- ☆平成24(2103)年、ゾーニングを基に施設整備を行ってきた「土地利用」の観点から、立地する施設・機関が相互に機能を高め合う「機能連携」の観点へ主眼をシフトし、「びわこ文化公園都市」を滋賀の社会成長・経済成長に貢献する場とすべく、「びわこ文化公園都市将来ビジョン(以下「将来ビジョン」という。)」を策定
- ☆令和5(2023)年〇月、立地施設・機関により、周辺環境の変化や10年間の取組の評価を踏まえて、将来ビジョンを改定

(2)改定の背景

「びわこ文化公園都市」の10年間の歩みを振り返り、評価・検証することで浮き彫りになった課題や、新たな社会の要請を踏まえ、滋賀県が抱える各種課題に対して、先導的に解決策を探っていく実証フィールドとして当地域を位置付け、「将来世代への責任」を果たすべく、**関係主体相互の連携・協働や個々の主体の具体的な行動の指針として共有**

3. 改定後のビジョンの概要

☆にぎわいや美しい文化・芸術、地域の誇りとなる歴史、新たに生み出された知恵、多彩で豊かな自然環境とコミュニティを次世代へと受け継いでいくことで、**「将来世代への責任」を果たす「未来を創造する実証フィールド」を目指す。**

【4つの検討の視点】 ☆利用・交流人口の増大 ☆立地施設・機関の持つ機能の維持向上 ☆新しい価値の創造・発信の促進 ☆持続可能な社会の形成<追加>

【6つの将来像】「土地利用」から「機能連携」へという考え方に立ち、令和12(2030)年に向けて、取り巻く社会状況や経済状況の中で、課題の解決を図りながら、強みを活かしていく目指すべき将来像を設定 <追加>

- 県内外の人々が交流する場
- 文化・芸術を創造する場
- 持続可能な社会へ挑戦する場
- 歴史と暮らしを紡ぐ場
- いのちと健康を支える場
- コミュニティを育む場

【プラットフォーム】<新規設置> びわこ文化公園都市エリア共通の課題であり、各将来像と同様に「取組の方向性」を定めることで、優先的に課題解決を図る。

- ☆誰もが「行きたい場所へ」「行きたい時」に「自由に移動」できるエリア **移動の自由** ☆モビリティ・マネジメントの取組を推進するエリア
- ☆知りたい情報へ容易にアクセスでき、瞬時に情報を共有・活用できるエリア **理解の共有** ☆ICT・データ活用を推進し、誰もが情報を発信・共有・活用できるエリア

【取組の方向性】 将来像実現に向けた短期および中長期それぞれの取組むべき方向性を明らかにし、具体的な取組を例示

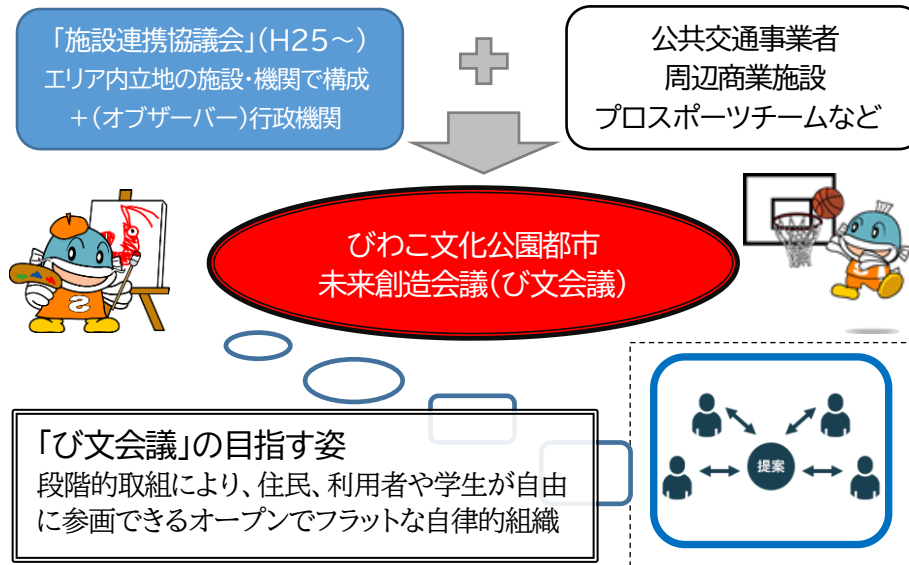
- ≪短期(実施)≫ ☆幅広い県民の利用や参加促進 ☆安全性、快適性の向上と利活用促進 ☆施設間連携による子どもや若者の学びや成長を育む ☆3大学を核とした産業振興につながる研究開発 ☆CO₂ネットゼロ社会づくりの推進 ☆歴史資源、樹林地の保存、活用の促進 ☆ボランティア活動の支援 など
- ≪中長期(検討)≫ ☆県内外の他の文化関係施設との連携 ☆CO₂ネットゼロ社会づくりの発信 ☆食の地産地消エリア形成 ☆地域の資源を次世代に受継ぐ ☆災害時の自治会、住民相互の助け合いの仕組み など

4. 将来像実現のための新たな推進体制「びわこ文化公園都市未来創造会議(び文会議)」

☆びわこ文化公園都市におけるにぎわいの創出、活性化につながる組織運営のため、現行ビジョン10年間で踏まえ、充実・強化を図るとともに、社会環境の進展にあわせオープンでフラットな自律的組織を目指す。

(1)組織拡大 …… び文の発展に寄与するエリア外関係者の新規参画

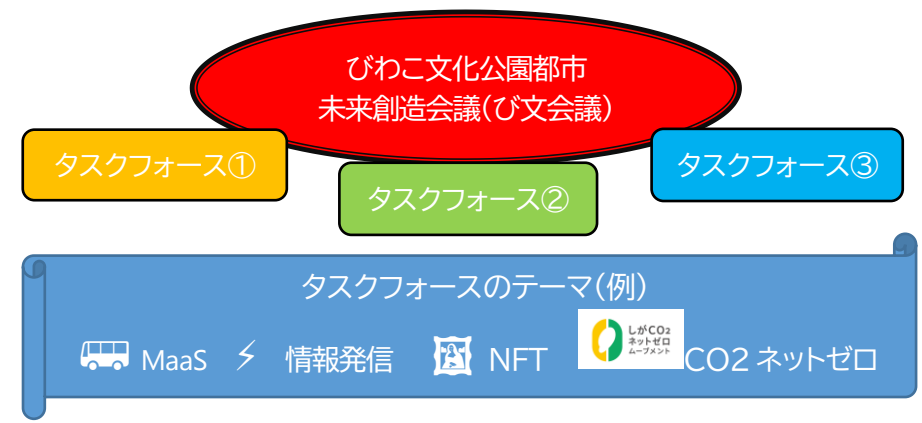
現行の「施設連携協議会」に、公共交通事業者や周辺商業施設、プロスポーツチームなど、びわこ文化公園都市の発展に寄与する企業、団体等を構成員として迎え、さらなる機能連携、にぎわいの創出を図る。



(2)機能強化 …… 課題ごとへの対策と環境の変化に合わせた柔軟な運営

☆テーマに沿った施設・機関等で構成し、課題抽出の上、各主体が自由に意見を交わし、課題解決・提案を行っていく仕組みとして「タスクフォース」を設置。タスクフォースでの結果は、「び文会議」で共有、全施設が協力・連携し、課題解決に向け対応

☆将来ビジョンが定める「取組の方向性」を社会情勢、取り巻く環境の変化に合わせて、柔軟に修正・変更



(3)び文共有指標 PDCA …… エリア内で共有できる指標の設定

☆「各施設の利用者数」など個別の指標ではなく、びわこ文化公園都市を俯瞰した視点で指標(インジケーター)を設定

☆PDCA サイクルによる進捗管理により、取り巻く状況を的確に把握し、取組の見直し精度を高める。

